

光る土の謎 丸い壁?!

どろだんごを磨こう

左官という日本伝統の土かべの技法を利用して、どろだんごをつくりま
 単なるどろ遊びではなく、芸術の域にも達する光る完全球体のどろだんご。
 年齢に関係なく、だれにでも美しく、世界にひとつのとおき仕上がります。
 作業は別々、大人チームと子どもチームに分かれて出来上がりを競いましょう。
 どんな技術を応用しているのかな？ どんな土を使うのかな？ どんな名前かな？
 壁が丸いってどういうこと？ 作品を作りながら光る土の謎を解いてみませんか？

日時 8月6日(土)午前10時～正午
 場所 公民館東分館 2階学習室
 対象 市内在住・在勤・在学の小学生の親子
 定員 親子10組(申込順)
 講師 三木きよ子さん(土絵作家)
 持ち物 タオル、飲み物、筆記用具、
 作品を持って帰るビニール袋

費用 2000円(材料費 先払い)
 申込 7月20日(水曜日)から
 電話あるいは直接
 公民館東分館へ
 ☎ 042-384-4422



●左官とは？【意味】建物の壁や床などを塗る作業のことで、土泥、しっくい、モルタル、珪藻土などを使う。ただ塗り固めるだけではなく、線や文様などを鏝(こて)をつかって模様にしたり、彫刻のように立体的に仕上げたりする。北海道洞爺湖サミットの際には、左官による装飾をほどこした調度品が披露され、各国首脳を魅了した。最近ではNHK大河ドラマ「真田丸」のタイトルに採用され、新鮮な表現方法として脚光を浴びている。

●三木きよ子さん【プロフィール】左官技術を応用した土絵を描く。園児と共に壁絵制作に取り組む。子どもの感性を引き出す「土を使った表現」の指導が好評。榎本新吉氏に師事



ほかのシーズンにも、親子対象の講座を企画中です。お楽しみに♪

5月・6月の講座報告

市民講座

関東の名城を知る

4月23日(土)は八王子城跡。歩いて、登って、下って、登って、休憩して。天然の要害とも言える道の険しさに、当時の人々の思惑を重ねました。5月21日(土)は埼玉県嵐山町の杉山城。コンパクトながら外堀、内堀、縄張りがよく判る構造で、戦国の領地や暮らしを守る気概が伝わってくる山城でした。講師の八巻孝夫さん、ありがとうございました。

5月11日(水)からの6週間。年代ごとのニュース映画を視聴しながら、関連する解説を聞きました。戦後の占領時に行われた政策の数々は、現在の日本の基礎ともいえる部分です。人々の表情や当時の世相がニュース映像によく反映されており、単なる歴史の振り返りではない、現実的な歴史体験をしました。講師の山田朗さん、ありがとうございました。

市民講座 **ニュース映画に見る 昭和史 パート3**

今後の講座をお楽しみに...